

第3部 受験対策

10章

プロジェクトマネージャ受験対策

本章では、プロジェクトマネージャ受験対策を解説します。受験対策の王道は過去問題を繰り返し解き、自分の中でしっかり理解するという方法です。基本的に合格への近道はないのですが、効率的に学習を進めるコツはあります。本章では、そのコツを中心に解説します。

10.1

受験対策方法論について

10.2

午前Ⅰ、午前Ⅱ 試験対策

10.3

午後Ⅰ 試験対策

10.4

午後Ⅱ 試験対策

10.1

受験対策方法論について

本章では受験対策に特化して、筆者の考える学習方法を中心に解説します。

受験対策の王道は、過去問題の学習です。他の市販テキストも、ほとんどが過去問題を解くことを中心に構成されており、この事実はゆるぎないと思われます。ただし、これは学習方法というよりも、学習方針に近いものがあります。学習の方向性を示していますが、具体的な学習方法を示すわけではありません。そして、学習方法についてはどのテキストでも明確に触れられていません。一般的な学習方法として、時間をかけて過去問題を解き、答え合わせをして理解を深めることを繰り返す、という手法だけが認知されているように思います。確かにこれは学習方針に沿った学習方法であるため、効果があります。しかし「その学習方法はいつでも効率的なのか？」という観点から評価すれば、そうとは言い切れないと考えます。初学者には初学者なりの学習方法、経験者には経験者なりの学習方法が適しています。

本節では、本書の受験対策の特徴を説明します。また、前述した従来の学習方法の短所や、学習計画の立て方についても解説します。

1. 本書の受験対策の特徴

●受験対策の特徴

本書の受験対策の特徴は、「効率的」というキーワードをもとに、学習方法をゼロベースで検討、提示している点です。効率的というのは、生産性とも似た概念です。受験勉強の生産性とは、投入した時間や労力に対する、試験の得点力向上度の割合で示されると考えます。なかなか数値として表しにくいのですが、感覚としては「短い時間で、いろんな知識を得た」とか、「楽な勉強方法なのに、過去問題を解けるようになった」という形で感じられるものだと思います。

本書で学習方法を明示することで、受験者は、「勉強のオーバーヘッド時間が短縮される」というメリットを得られると考えます。オーバーヘッド時間というのは、純粋に学習している時間以外の、学習に必要な時

間のことです。例えば、自分に適した勉強方法を考えたり、過去問題の傾向や自分の弱点を分析したりする時間のことです。間接学習時間とも言えると思います。

純粋に学習している時間 (直接学習時間)	オーバーヘッド時間 (間接学習時間)
-------------------------	-----------------------

図表 10.1-1 学習時間の内訳

本書では学習方法の一覧を提示することで、受験者が学習方法を一から検討する手間を省き、オーバーヘッド時間を削減できます。オーバーヘッド時間が減ることで、トータルの勉強時間が減少します。これは、少ない時間で多くの成果を上げることにつながるため、受験勉強の生産性が向上したと言えます。

●本書の受験対策を活用する際の留意点

本受験対策は、いかに効率的な学習を行うかを解説することを目的としており、今まであまり焦点の当たらなかった、学習のオーバーヘッド時間短縮という観点から学習方法をまとめたものです。そのためもあり、過去問題を具体的に解いて解説することはしません。その点は、他の市販テキストなどで補完する必要があります。

本受験対策を執筆するに当たっては、他の市販テキストをおおいに参考にさせて頂いています。他のテキストで満足できる箇所はゆずり、他のテキストに記載されていないことや、記載されていても別な観点から焦点を当てて執筆するように心掛けました。つまり、ベスト・オブ・ブリードの発想で執筆に当たっています。よって、他のテキストとの併用が必要です。

●想定する受験者像

本受験対策が最もマッチすると考える受験者像は、学習の中で弱点や課題を克服するための方法論が見つからない人や、「本当にこの学習を続けて合格できるのだろうか？」と悩んでいる人などです。

自分の学習方法が、本当に適切なのかを悩みながら勉強を続けている

と、「もっと別の良い手段があるのではないか？」と考えてしまい、目先の学習に集中できない場合があります。

このように、最適の手段を見つけない限り安堵できないという心理状態は、IT業界に長年携わった人に多く見られ、これを筆者は「効率化の哲学」または「最適化の哲学」と呼んでいます。かくいう筆者も「効率化の哲学」によって悩まされた一人です。

筆者がプロジェクトマネージャ試験の学習をしている最中に、いつも頭の中をよぎっていた、1つの不安。それは「この勉強方法は本当に効率的なのだろうか？」ということでした。筆者は2度目の受験でプロジェクトマネージャに合格しました。1度目は午後I試験で足切りだったので、2度目の受験では午後I対策を強化しなければなりません。しかし何をすれば良いのか、その方法論がないのです。

筆者が学生だった頃のように、学習方法論もなく単にがむしゃらに問題を解きまくる、というような勉強方法はできなくなっています。それは、勉強時間を確保できないからということもありますが、IT業界に長い時間身を置いた者として、「効率化の哲学」がそれをさせないのです。深く考えず過去問題を解き始めると、「その勉強方法で実力が付くの？時間の無駄じゃないの？」と語りかけてくるのです。

不安を抱きながら勉強するというのは精神的には結構つらいものがあります。しかし不安から逃げず、前向きに対処したおかげで、試験対策方法を研究することを1つの楽しみとして見出せるようにもなりました（あまり世間受けしない楽しみではありますが）。

本受験対策は、筆者と同じく「効率化の哲学」（病気？）から抜け出せず、自分に最適な学習方法を見つけないと安心できないという、一種の強迫観念に似た感情を抱く方にはうってつけだと思っています。

2. 従来の学習方法の短所

プロジェクトマネージャ試験の受験率（試験の申込みをした人数における実際に受験した人数の割合）は約57%(*1)です。よって、ほぼ半数ともいえる43%の人が受験を申込んだにも関わらず、当日受験していな

(*1) 出典：独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理技術者試験センターの統計情報。H13～H21 年度までの、プロマネ応募者数におけるプロマネ受験者数の割合。

いか、試験の途中でリタイアするという結果になっています（ただしプロジェクトマネージャ試験だけでなく他の試験区分でも受験率は低く、総じてこのような傾向は見られます）。

受験することを途中であきらめた人の多くは、学習不足の状態であると思います。学習不足になる理由としては、“勉強時間を捻出できなかった”、というのが最も多いのではないかと考えます。その中でも、午後試験の学習時間を捻出できなかった人が圧倒的に多いと考えます。それは、午後試験は午前試験と異なり、隙間時間を活用して学習することが難しいからです。

午後 I 試験の勉強では、1つの問を解くのに30分程度の時間がかかり、解いた後の答え合わせと、不明箇所の調査などを含めると、1時間以上かかる場合も多いと思います。また午後 II 試験の論文は、実際の試験と同じ2時間か、場合によってはそれ以上の時間をかけなければなりません。これらの勉強をするには、まとまった時間を確保する必要があり、忙しい人ほど時間を捻出できなくなります。その結果、学習不足の状態となり、受験を断念することになると考えます。

しかしこれは、「過去問題を実際の試験本番と同じように解き、答え合わせをする」という従来の学習方法を採用しているからだと考えます。この学習方法は効果があり、多くの気付きや知識をフィードバックできるので良い方法です。しかし、学習のためにまとまった時間を確保しなければならないという短所があるため、いつでも誰にでも最適な学習方法とはいえないと考えています。

そこで、従来の学習方法の短所を補う学習方法を用いれば、学習不足になる可能性が減るのではないかと考えました。具体的には、従来の学習方法で得られる効果を細分化して、隙間時間を活用して学習できる方法を検討しました。その結果、1つ1つの学習方法でまとまった時間を必要としなくなり、また、比較的簡便な方法になったため、初学者にとっても無理なく学習を開始できるようになりました。これらは、筆者が受験勉強をしている中で工夫した学習方法であり、隙間時間を活用する学習方法は効果があったと考えています。

3. 学習順番、及び学習開始時期について

初学者は、午前試験から順番に学習していく傾向があります。しかし、午前試験の学習に思った以上の時間がかかってしまい、結局、午後試験の勉強時間が捻出できなくなるケースが多々あります。

午前試験は、ある程度の時間さえかけて勉強すれば、誰でも合格点を取れるようになりますし、また100点を目指す試験ではないので、キリの良いところで午後試験の学習に移行しなければなりません。

また、午前試験を最初に学習した場合、試験直前になって、憶えていたはずの知識を忘れてしまい、復習の時間が取られることになります。午前試験は暗記に頼る部分が多いので、しばらく学習をしなければ、それだけ忘れていくことになります。

以上のような問題が発生しがちなため、筆者が考える学習順番としては、午後 I 試験→午後 II 試験→午前試験 が良いと考えます。ただし、この順番は、午後 I 試験の学習がすべて完了してから、午後 II 試験の学習を開始するというのではなく、ある程度午後 I 試験の学習に着手できたら、同時並行的に午後 II 試験の学習を始めるようにします。午前試験も同様に、同時並行的に行います。

午後 I 試験対策を最初に行うのは、午後 I 試験の学習の成果が、午後 II 試験対策にも生きてくるためです。午後 I 試験で学んだプロジェクトマネジメントの基礎知識は、そのまま論文を書くための土台の知識となります。また、午後 I 試験は、プロジェクトマネジメントやシステム開発の幅広い知識が必要とされるのはもとより、制限文字数で回答するためのテクニックや、過去頻出問題の傾向を踏まえた回答方法を学ぶ必要があり、初めに着手しておいた方が無難だといえます。

午前試験対策を最後に回すことで、必要以上の学習時間を割くことができなくなります。また、短期集中型学習の特徴として、忘れた知識を憶え直す時間を、ある程度削減できます。

もし、午前試験対策を最後に回すのが心配な人は、最初に学習しても構いませんが、過剰に学習して、いたずらに時間を浪費することには気を付けましょう。筆者の感触として、午前試験対策は、前年に高度（プロフェッショナル）試験を受験した人なら1～2週間程度、他区分受験